

(四)
解散を前にせる
無産政黨の陣容

(一) 母國今議會の解散も十中八九は免かぬところと思ふが解散の曉にはいよいよ普通選舉による最初の總選舉戰の火蓋が切つて落されるわけだ、既政ブルジョア政黨が果してどの程度まで無產階級の侵入を防ぎ得るか又新進無產政黨がブルジョア政黨の金城鐵壁を果して崩し得るか、昨年普選案が第五十議會を通過してすでに二年、この書期的總選舉戰に對する新興無產政黨の陣容は如何に張られてゐるか、現在組織されてある無產政黨は労働農民黨、日本農民黨、社會民衆黨、日本勞農黨の四政黨である、同じ無產政黨といつても夫々に主義色彩に濃淡があり、それがために各自分が相反目しつゝあることは實に遺憾なこといはなければならぬ。

労働農民黨（以下勞農黨と略す）は杉山元治郎の率いる日本農民組合がその中心をなしてゐる。この農民組合はかつて大正十四年十二月全國的單一無產政黨を標榜して生れた農民勞働黨の產婆役を務めたが同黨が成立を宣言するや否や「共產主義的色彩あり」との理由で直ちに政府は解散を命じた、そこで日本農民組合は更に大正十五年三月再見之通、元辯護士平渡信、同氏は老實浦勝人氏、元政友會顧問岩崎勳、政友本黨前黨務委員長高橋、元辯護士平渡信、同氏は詐欺罪の嫌疑あるものとして政府が穩健派と認むる勞働總同、大阪地方裁判所の公判に付せられ、主張の旗印高く更生したもので敗訴された、首相外五氏の告訴事件は結局不起訴になるらしい公判は來年四、五月頃大阪地方裁判所に於て開廷される筈

盟は主義り異なるものと行動を共にすることは出來ぬさて分離脱退してしまつた。これが爲め労農黨の勢力は量に於ては著しく強固になつた觀がある、昨年十二月勞農黨第一回大會に於て杉山元治郎は委員長を辭し早大教授大山郁夫が新に中央執行委員に任命された、水平社もこれに加はり崩れた陣容を盛り返して總選舉戰に當らんとしてゐる

授大山郁夫が新に中央執行委員に任命された、水平社もこれに加はり崩れた陣容を盛り返して總選舉戰に當らんとしてゐる

山元治郎は委員長を辭し早大教授大山郁夫が新に中央執行委員に任命された、水平社もこれに加はり崩れた陣容を盛り返して總選舉戰に當らんとしてゐる

東拓支店と鮮銀
白晝襲はる

▼喫煙室△

◇

聖州義塾

サントス港ラルゴ、デ、セントラル、三三四

セントラル、三三四

▼ 雜報

● イタラレ鐵道後聞 同鐵道役員改選を舉行結果は左の通り
ジユキア、レジストロ間連絡工事は尙着手の運びに至らぬが同支線は略決定せる由にて既に海輿へレジストロ倉庫の賃借を申込み若しそれが出來ねば別に新築する意図ださうな然しこれは式交渉に入るだらうと尙海輿がサントス市に於ける倉庫新築引込線に付いてはイタラレ社が原價でやつてやらうとの事にて万事都合よく進行中なりと
● 内地は豊作 珈琲は豐作で米も所によりて相違はあるがノロエヌテ線など一般に順調三角ミナスも平手の八歩位ソロカバナは大体に良好の由但し棉作は何所も一般に不良で殆んど問題にならずソロカバナ線の棉作地帯など殆んど邦人の影を止めず
● 神田醬油護渡し 別項廣告
にある通りサントス市の神田醬油醸造所は持主の神田榮太郎氏
歸國に付き護送し度い希望の由
● イビチング便り 全驛コレギニヨ植民地の一部は從來有名なマレイタ地帶として人々に怖がられてゐたが昨年五月同仁會から高岡ドクトルが出張して治療に當り親しく豫防法などを教えた爲めか本年は一名の患者も出さず一同大いに喜び居れど
● グリックベ來たる 一九一八年以來前後二回に亘つて世界中を荒らし廻つたスペイン風邪は舊らう來又々歐洲圓に猖獗を極め東洋方面にも漫延し人々を恐怖に戰かせてゐたが獨逸南米だけは此厄を免れてゐた所先週初めてロイド會社の汽船は御苦勞にもハングルガから遂に輸入して仕舞つたこの病氣に對しては未だ完全な豫防法が發見されをらず流行つて來たら諦めよく耀る外致方なし

● モンソンだより 全地日本

人會では先般の定期總會に於て

會長澗清二副會長平谷重太郎

會計兼外交主任藏力哲夫佐々木金次郎幹事宮崎松次郎島田

寛良宮口正幸坂本寛吾山下明

良野村左一郎渡邊德次郎

サントアナスタシオだより

全郡は近年めきく發達して郡

内更に居殺所の設立電燈

設備並に下水工事の完成などを

目論んでゐる上に佐州政府の助

力を得て全驛アラサツーバ間の

自動車道開さくに着手の豫定で

ある同郡内には約四百萬本の珈

琲樹あり内百萬本はすでに結實

するが今年度は華アナスタシ

オ町内更に居殺所の設立電燈

設備並に下水工事の完成などを

目論んでゐる上に佐州政府の助

力を得て全驛アラサツーバ間の

自動車道開さくに着手の豫定で

ある同郡内には約四百萬本の珈

十手物語
田村西男
海賊

(二二)
「深川から外へ出れば、又た何うなと考へも起りませう、焦心したつて爲方がありません、最う決心をしました、逃げれば種々に後で悪口もありませうけれど、其んな事考へた日には、二人の身が詰ります。貴方は其氣になりませんか」

覺悟さいふものには重い力がある、案じ煩つてゐたお近は逃げると決心がついて、世界が廣くなつたやうな様子である。鶴之助は腕を拱ひて考へ込んでゐたが、「お前その覺悟は眞實かい」

「貴方になんて嘘を吐きませうより、何塵貧しい暮をして、二人で起臥し爲て居た方が樂しいと思ひませんか」

「そりや言う迄もない事だが、お前にこれから先の苦勞をさせられるのが、私は可憐想でならないのだ」

「私はその大きな苦勞が因果と所にして見たいと思ひます」

「有り様は逃げて費ひたかつた私はお前の心を危ぶんで言ひ出せなかつた、それじやこれからは塘らずお近の手を握り締めて直ぐに」

「待つて下さい、私も支度をしなければなりません。九つの拍子木を合圖に、橋下で落合ひませい」

「九つといへば後一時私もござで時刻を過ぎざう、それでは九つを橋下で」

「必つと待つて居て下さいよ、二人とも約束はしたもの、二人このからの運命を思へば、悲しさ

が胸に込み上る、お近は鶴之助くまなく行つた。側には白魚拍子といふ名稱が起つて、小納

ミシリと物音がした、二人は吃新地の出端の茶屋では廻り潮來經の愛妻解穢の禪師の娘など

驚して、顔を見合はせる、お近の唄が陽氣で、送りの船の三味皆な歴史的に名高い白拍子での

は猶も怪しんで、誰か居るのと線の撥音が賑やかだが、鶴之助の

障子を開けたが、庭の櫻が夜風に取つては、これ等はむしろ悲鳥帽子水干を被らせ、大刀を佩

にちらり、美しく散つて居るは哀の音に聞えた。

「未だ九つにならないのか待違う事だ」と、橋の欄干に身を

凭せて、用面をチソとみつめる

風が少しうだか、浪のウチリが陣中に遊女を招いて酒宴を開いて

かせて舞はしめてから、それを

張つたさういふ記録も残つてゐる。同時に賴朝は、志水冠者義

が大礎化粧の遊女を集めて宴を張つたさういふ記録も残つてゐる。同時に賴朝は、志水冠者義

が大礎化粧の遊女を集めて宴を張つたさういふ記録も残つてゐる。同時に賴朝は、志水冠者義